

ミャンマー医療支援続ける岡山大

歯学でも交流本格化

長年にわたり、医療人材の育成など人道的な立場でミャンマーを支援してきた岡山大は、従来の医学分野だけでなく、歯科分野でも交流を本格化させている。現在、歯学部で受け入れた同国の歯科医師4人が口腔病理や歯科矯正学などの研究・臨床、教育プログラムの習得に励んでいる。(伊丹友香)

岡山大は2002年、ミャンマー保健省との2部局と交流協定を締結。若手医師の受け入れや共同研究、現地での手術指導、巡回診療などを続けている。

歯学部では12年以降、定期的に教員らが現地を訪問。ミャンマーでは、かみたばこの習慣がある影響で口腔正学の教育プログラム

口腔病理や
歯科矯正学 若手4人受け入れ

がん患者が多いとさへ理解を深めていさん(36)。帰国後は指がんと治療に役立てるため細胞診について学んだり、同大病院で外



りしている。ノウ・メイ・ポウさん(37)は「ミャンマーには口腔病理医はいない。技術を母国で広めたい」と意気込んでいる。

飯田征二副院長は「散発的な支援ではな

情報交換するミャンマーの歯科医師(前列)と岡山大の教授ら

く、長く続けられる交流にしたい。こうした取り組みは大学の国際化にもつながる」と話す。

同大とミャンマーの交流は、NPO法人「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」(事務局・岡山市)の協力を得て実施。理事長の岡田茂同大名誉教授は30年以上、同国と医療分野での交流を行っている。